

## 『人が起こす問題』

小城市立三日月小学校 6年 <sup>かわくぼ</sup>川久保 <sup>りるは</sup>莉絆

よくニュースで事件が起きた、犯人が捕まった。などということを耳にしないだろうか。それぞれ内容は異なるが、一つのまとまりとして犯罪。そしてその犯罪を犯した人を犯人という。そもそも犯罪とは刑罰を科せられるべき行為のことを指す。犯罪は人を傷つけることが簡単にできてしまう。そんな犯罪を無くすには、どうすればよいのだろうか。

まず私はなぜ犯罪が起きるのかということに注目した。大きく犯罪といっても様々なものがある。窃盗、殺人、著作権法などほかにもたくさんあるが犯人の動機に注目して過去に起きた犯罪を調べてみた。様々な理由があったが、まとめると自分が得をするから。というのが圧倒的に多かった。そうして思ったことが犯罪と人の感情というのは大きく関わっているのではないか。ということだった。なので人の感情について調べてみた。

感情というのは脳の扁桃体というところから生まれると言われている。そしてその扁桃体が外の環境から信号を受け取り、それが自分にとって危険か安全か、なにかしらの利益があるかそうでないかを、意味づけし、危険なら不快安全なら快というような感情を引き起こす。それをもとに嬉しい、悲しい、楽しいなどの様々な種類の感情が生まれる。

では、どのような感情が一番犯罪につながりやすいのだろうか。私は恨みだと考えた。もちろん犯罪の種類にもよるし、人がなにかの出来事をそれぞれど

うとらえるかにもよるだろう。しかし、加害者と被害者に面識があった場合、犯人の動機に恨みが関係した自分勝手なものが多いように感じた。それに人は嬉しいなど感情や出来事よりも、悲しいなどの感情や出来事のほうが多く感じやすくよく覚えていることが多い。なので私は他人に向けたマイナスな感情、その中の恨みが犯罪につながりやすいのではないかと考えた。だが、これは加害者と被害者に面識があった大きな事件の話だ。もし加害者と被害者に面識が無かった場合、犯人がどのような考えや感情、目的があるかは分からない。だから必ずすべての犯罪が恨みによって起こるという訳ではないのだ。それをふまえたうえで他の犯罪や感情について考えてみた。

私は物を盗む人について調べることにした。他人の財物を故意に持ち去ったり、無断で使用することを窃盗罪という。ではそのような罪に値する人はどのような考えで物を盗んでいるのだろうか。というのも、どのような物を盗んだのかということも関係するため、本人でないかぎりなぜ盗んだのかという理由は分からないのだ。なので自分だったらという考え方をした。もし、自分が自転車を盗んだとしたらどんな理由で盗んだのだろうか。私が思いついたのが速く移動したかったからというのと部品を売ろうとしたの二つだった。

もちろんこれは仮定の話で私の考えなので正しいかは分からないがこれをもとに考えてみると二つとも自分の感情とは関係ない理由だった。ただ、速く移動できる、売ってお金が手に入るという自分が得をする理由なのだ。人はすぐ得か損かということを考えてしまうらしい。その考え方が今の日本にとっ

て正しいのだろうか。自分は得をするが視点を変えてみると損をする人がいるというのはどうなのだろうか。人によって意見は変わるだろうが、私は損をする人がいてはいけないと思う。損をした人を自分のこととして考えるといたたまれない気持ちになるからだ。そのような気持ちになることはあってはいけないと思う。

そこで、どうすれば得をする人が増えるのか、損をする人が減るのか考えた。そもそも私が指す損というのは人がなにかの出来事で傷つくことだと思っている。なので人が傷つかない方法を考える必要がある。

話はかわるが、よく学校の先生が児童に自分がされていやなことは相手にしてはいけないと言うが人によってされていやなことは異なるのだから意味が無いのではないかと思う。そのようなことを伝えたいならば自分がされて嬉しいと思うことを相手にしなさいと教えたほうがよいのではないだろうか。同じ意味のように聞こえるが、例えをあげるとお店の人にありがとうございます。と言うか、言わないかという話だ。言われなくても傷つかないがお礼を言われたほうが嬉しいと思う。そういうささいな思いやりが一人一人にあって増え続けていけば、損する人も減り、得をする人が増えて犯罪も今より少なくなっていくのではないだろうか。